



大宮小だより

R4年 9月16日 No.7

発行 阪井宏行

～自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成～

4. 5年生 地域学習で稲刈り ～人とホタルの里地・・・～

5月の田植え、7月の案山づくりを経て、9月13日に稲刈りを行いました。今回も、「人とホタルの元気な里地づくりプロジェクト」のみなさんの指導を受けての体験学習です。稲刈り専用の鋸鎌(のこぎりがま)を使い刈り取ります。刈り取った稲は藁(わら)で結んで束にして、木で組んだ稲架(はさ)にかけて天日干しにします。昔ながらの稲刈りの風景です。

その他、木製の足踏み脱穀機で稲の束からもみをとる体験や、コンバインで稲を刈り取る様子の見学もあり、体験とともにいろいろな知識も教えてもらいました。

昔は、田んぼの架干しは秋の風物詩でした。稲刈りが終わった後の田んぼは子ども達の遊び場でもありました。しかし、今は害獣除けのフェンスで自由に田んぼにも入りにくくなってしまいました。遊びや生活の中での季節感がどんどんなくなっていると感じています。

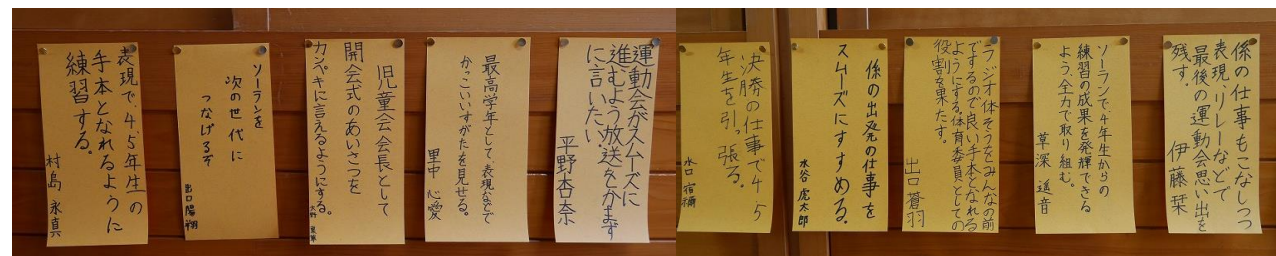
できたお米は後日販売し、来年度のお米作りの運営資金にします。購入の協力をお願いします。 ※9/15 別紙にて、販売注文用紙を配付しました。 → 注文×切 9/22



運動会に向けて！ ～日々、ダンス練習に励んでいます～

先日の職員会議で、先生方に次のような話をしました。「運動会は一年の中でも特に大切な行事であり、子ども達が大きく成長する場である。このチャンスを逃さないように取組を進めたい。体育担当の雨森先生から運動会の経営計画が提案されているが、我々の中で、次の二点をもう一度はつきりさせ、あと二週間の取組を充実させたい。①運動会の取組を通して学級の子供達にどんな力をつけたいのか？ ②さらに、その力をつけるためには運動会の取組でどんな課題を与え、どんな活動の場面をつくる必要があるのか？ 漠然と一生懸命やりました、ではなく、運動会後の子どもの姿、つまり目指すゴールを想像しながら、ねらいと具体的な指導を明確にして取組を進めよう。そして終わったあとにはきちんと評価し、次につなげよう。」……………そういった内容の話です。

次の写真は、6年生の廊下に貼りだされている運動会の「自分の目標」です。



自分の力を高め、成功にたどり着ける人は、自分の行動の目的や理由をはつきりと意識し、目指すゴールの姿をより具体的にイメージしている人です。目的やゴールイメージをしっかりと持っている、今日はこれをする、明日はこれをする、といった具体的な行動が表れてきます。さらに、より頭の良い人は、その行動に工夫があります。いろいろ試行錯誤しながら、もっとも効果的で楽しい方法を考えようとし、その繰り返しが、確実なゴールの姿に結び付くのです。

教員のように、人を育てる仕事もこれが肝になります。子どもの成長の姿(ゴール)を明確に持ち、そのゴールを目指し、子ども達の力を伸ばすための、より効果的で興味を掻き立てるハードルを与え跳び越えさせていく、その繰り返しが日々の仕事です。



◆ 運動会のプログラム、観覧席、注意事項など、大宮小のホームページに上げましたのでご覧ください。